学校番号	１０３

令和８年度　生活教養科

教科	生活教養	科目	生活自立	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書							
副教材等							

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

緑化活動、耕作活動、環境整備活動（清掃活動）、作業活動（木工作、紙工作、貼付作業、封入作業など）、発表（スピーチ）、校外活動（社会見学、地域散策など）、学校行事の事前・事後学習、職場実習等の事前・事後学習、ソーシャルスキルトレーニング、認知作業トレーニングなどを行いながら、生徒一人ひとりの特性や課題について理解を深め、生活自立に必要な能力を伸長します。

2　学習の到達目標

共同作業を通して、学年を越えたつながりを深める中で、良好な人間関係を形成する力やコミュニケーションスキルの向上を目指す。生徒の主体的な取り組みを重視し、作業を中心とする学習に取り組むことで、生活自立や社会参加に必要な技能や習慣を身に着ける。また障がいによる学習面・生活面の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度、習慣を養い、自立を目指してその基盤を培う。学年を越えた合同授業を展開し、人間関係の形成やコミュニケーションスキルの向上を目指すとともに、作業を中心とする学習内容を取り入れ、手順を理解し実践していく力や、集中力、手先の巧緻性を高める。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	コミュニケーションの基礎的能力を身に付けて、状況に応じたコミュニケーションを取ることが出来る。 姿勢と運動・動作の基本的技能の習得と、日常生活に必要な基本動作を会得する。自立した生活に必要な基礎的な知識を身につけることが出来る。	他者とのかかわりの基礎を構築して、他者の意図や感情の理解が出来る。また自分の情緒を安定させて、状況の理解と変化への対応を図ることが出来る。それによる自身の感覚を総合的に活用した周囲の状況について把握し、状況に応じた行動をとることが出来る。	積極的に他者とのかかわりをもつことに努力して、自己と他者を相互的に理解しようとしている。また集団に参加して、「ともに学び、ともに育つ」という姿勢を持ち、自立に向けて前向きに取り組むことが出来る。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期		園芸活動 社会見学	a:設定した課題に取り組むにあたっての基礎的な知識を理解している。 b:他の生徒とのかかわりの中で、自らの考え方や感じ方を深めて表現する。 c:他の生徒とのかかわりの中で、自己と他者を相互的に理解しようと調整している。	レポート 課題 発表	レポート 課題 発表	レポート 課題 発表
		ソーシャルスキルトレーニング 認知作業トレーニング	a: 設定した課題に取り組むにあたっての基礎的な知識を理解し、技能を習得している。 b:対人関係に対するスキルを身に付けることで、社会生活における解決方法を見つける一助として、自分の特性に合った適切な他の生徒とのかかわりを考える。 c:集団におけるかかわりのなかで「ともに学び、ともに育つ」前向きな姿勢を持とうとしている。	レポート 課題 発表	レポート 課題 発表	レポート 課題 発表
2学期		園芸活動 団旗の作成	a:設定した課題に取り組むにあたっての基礎的な知識を理解している。 b:他の生徒とのかかわりの中で、自らの考え方や感じ方を深めて表現する。 c:他の生徒とのかかわりの中で、自己と他者を相互的に理解しようと調整している。	レポート 課題 発表	レポート 課題 発表	レポート 課題 発表
		SAKURA フェスティバルにて生活自立の授業内容発表	a: 設定した課題に取り組むにあたっての基礎的な知識を理解し、技能を習得している。 b:他の生徒とのかかわりの中で、自らの考え方や感じ方を深めて表現する。 c:他の生徒とのかかわりの中で、自己と他者を相互的に理解しようと調整している。	レポート 課題 発表	レポート 課題 発表	レポート 課題 発表

3学期		園芸活動 社会見学	a:設定した課題に取り組むにあたっての基礎的な知識を理解している。 b:他の生徒とのかかわりの中で、自らの考え方や感じ方を深めて表現する。 c:他の生徒とのかかわりの中で、自己と他者を相互的に理解しようと調整している。	レポート 課題 発表	レポート 課題 発表	レポート 課題 発表

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度